

船舶事故調査報告書

平成30年11月21日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	平成30年3月6日 12時10分ごろ
発生場所	和歌山県串本町 ^{かしの} 榎野埼南東方沖 榎野埼灯台から真方位121° 3.1海里付近 (概位 北緯33° 26.7' 東経135° 54.9')
事故の概要	漁船 ^{こうえい} 幸栄丸は、西南西進中、機関室に浸水した。
事故調査の経過	平成30年6月8日、主管調査官（神戸事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	漁船 幸栄丸、9.0トン
船舶番号、船舶所有者等	WK2-3054（漁船登録番号）、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	主機等に濡損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東北東、風力 4、視界 良好 海象：波高 約2.5m
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、漁場移動の目的で西南西進中、舵が効かなくなったので、船長が、操舵機の遠隔操作油を補給しようとして機関室に入ったところ、機関室内に浸水を認めた。</p> <p>船長は、電動のビルジポンプを運転し、更に手動のビルジポンプも操作して排水を行ったが、浸水の増加が続いたので、自力での航行を断念して主機を停止し、携帯電話で僚船に118番通報を依頼した。</p> <p>本船は、来援した巡視艇にえい航され、串本町串本漁港に入港した。</p> <p>本船は、上架して機関室を点検したところ、主機の冷却海水管のラバーホース締付け金物（以下「本件ホースバンド」という。）が経年使用で緩み、ラバーホースが外れていたことが判明した。</p> <p>船長は、膨張式救命胴衣を着用し、携帯電話を防水の袋に入れていた。</p>
分析	本船は、榎野埼南東方沖を西南西進中、主機の冷却海水管の本件ホースバンドが経年使用で緩んだことから、ラバーホースが外れて接続部から海水が漏れ、機関室に浸水したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、榎野埼南東方沖を西南西進中、主機の冷却海水管の本件ホースバンドが経年使用で緩んだため、ラバーホースが外れて接続部から海水が漏れ、機関室に浸水したものと考えられる。

再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 主機の冷却海水管は、日常的に緩み及び漏えいの有無を点検すること。・ 機関室外板に損傷がない状況にもかかわらず、機関室が浸水した際は、海水ポンプ及び主機を止めて海水浸入量の軽減を図り、浸入箇所を確認して漏えいを止めることを最優先とすること。・ 冷却海水配管等にラバーホースを用いている場合は、定期的にホースバンド等の増締めを行い、必要に応じてゴムホース及びホースバンドを交換することが望ましい。・ 専ら1人で乗り組む小型船舶は、可聴型ビルジ警報装置を設置することが望ましい。
--------------	---